

平成 28 年度第 2 回鳴門市総合計画審議会 議事概要

日時：平成 28 年 9 月 12 日（月） 午前 10 時 00 分から 11 時 55 分まで

場所：うずしお会館 2 階第 1 会議室

出席者：（審議会委員 20 名）

秋山委員、岩本委員、小川委員、勘川委員、木具委員、小林（弘）委員、
小林（夕）委員、齋藤委員、佐竹委員、曾良委員、多智花委員、立見委員、
中岸委員、戸田委員、林委員、平野委員、藤村委員、松本委員、村澤委員、
山下委員

（鳴門市関係者 16 名）

泉市長、安田教育長、山内企業局長、三木政策監、林事業推進監兼企画総務部
長、喜馬市民環境部長、荒川健康福祉部長、黒川経済建設部長、榊消防長、
花補佐企業局次長、大林教育次長、近藤議会事務局長、事務局 4 人

傍聴者：なし

会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
 - (1) 総合計画実施計画（平成 27 年度実績）について
 - (2) 総合計画後期基本計画（素案）について
- 4 閉会

会議資料一覧

- 【資料①】 第六次総合計画実施計画（平成 27 年度実績）
- 【資料①-1】 実施計画一覧表
- 【資料②】 後期基本計画素案（はじめに）
- 【資料③】 後期基本計画素案（成長戦略）
- 【資料④】 後期基本計画素案（分野別基本計画）
- 【資料④-1】 後期基本計画体系表
- 【資料⑤】 鳴門市総合計画審議会委員名簿
- 【資料⑥】 鳴門市附属機関設置条例
- 【資料⑦】 鳴門市総合計画策定に関する要綱

会議経過

- 1 開会后、市長挨拶。
- 2 司会より教育長以下、市の出席者を紹介した。
- 4 議事（1）について、事務局より資料①の説明後、審議を行った。
- 5 議事（2）について、事務局より資料②、③及び④の説明後、審議を行った。
- 6 山下会長及び政策監より挨拶を行った後、会議を閉会した。

主な質疑等、議事の概要は以下のとおり。

◆議事（1）第六次総合計画実施計画（平成 27 年度実績）について

※資料①に基づき、総合計画実施計画（平成 27 年度実績）の内容について事務局から説明。

山下会長

事務局より実施計画について説明があった。委員の皆様からご質問等があればいただきたい。

委員

私は桑島に住んでおり、下水道に関して一番関心がある。先日、新聞に汚水処理の進捗状況に関する記事が掲載されていたが、徳島県は全国ワースト 1 となっていた。個人的な意見にはなるが、下水道事業をもっと推進してほしい。

黒川経済建設部長

下水道については、平成 21 年 4 月 1 日に供用が開始された。平成 27 年 3 月末現在、整備面積は 125.1ha、区域内人口は 4,802 人である。毎年 3 億円余りの費用もかかり、職員等による個別訪問を行うなど、下水道の接続促進に努めている。

現在は桑島地区、黒崎地区などをあわせた第 2 期計画を進めており、工事の進捗ではあと 2、3 年かかる見込みである。完了次第、第 3 期計画に着手する予定である。

山下会長

進捗状況が未達成となっている事業に関して、ご質問等があればいただきたい。

委員

資料①P12～P14 の観光に関する事業について、徳島ヴォルティスが J 2 に降格した影響で観光入込客数が減少したと書かれている。

多くの観客がスタジアムに応援に来る方法に関して、浦和や新潟など、他のクラブ・サポーターを見てみると、大きなフラッグを掲げて一色になって応援している。あのように大勢の観客が来ると選手も勝利への意識が高まるようである。

県下全体の問題ではあるが、鳴門市にスタジアムがあるので、応援の面で何か支援できないものか検討いただきたい。

黒川経済建設部長

徳島ヴォルティスが J 1 に昇格して、平成 26 年度にはアウェイから多くのサポーターが来られた。J 2 に降格した段階で、ある程度の想定はしていたが、平成 27 年度に入りアウェイからの観客が少なくなり、入場者数が大幅に減少した。また「CLUB VORTIS」の会員である鳴門市民は、平成 26 年度の 1,375 人から、平成 27 年度には

979人と減少している。

入場者数については、J1の昇格争いなどチームの成績により、自然と伸びてくる面もある。市としては、市内小中高生への無料入場券の配布や市民デーの開催などの取り組みを行っているが、未だ十分な成果は出ていない。

ヴォルティスに関心を持ってもらえるよう、ヴォルティスの選手と高齢者が健康づくりの教室を開催するなどさまざまな取り組みを進めているが、今後さらに検討していく必要があると考えている。

委員

学校単位で招待などはできないのか。

黒川経済建設部長

無料招待に関しては、徳島ヴォルティスの運営の問題もある。現在は、徳島ヴォルティスと観光振興課が協議を行い、年に1、2度、市内の小中高生を対象として行っている。

委員

いろいろと対策を考えていただきたい。

委員

コウノトリに関して、大麻町の方は地元に着するように期待している。コウノトリの数が少ないうちに、巣塔を多く作った方が良いのではないかと。

黒川経済建設部長

ご存知のように今年コウノトリが産卵したが、結果的には巣を放棄し、一旦は県外に飛んでいった。現在は、当時産卵したメスを含め、2羽のメスがいます。おそらく冬には営巣、産卵の時期になるため、別のオスも一緒に帰ってくればと期待をしています。

定着に向けては、地元のレンコン農家やJAなどの関係団体とコウノトリ定着推進連絡協議会を構成しており、まずは、コウノトリが驚かないように、静かに見守ってもらえるように看板を設置している。

巣塔に関しては、関係機関からも要望等をいただいた。専門家に聞くと、電柱と巣塔では、電柱に巣をする性質が非常に強いようである。営巣が危険な場合は、近くに巣塔を建て、時期が来れば強制的に巣を移動することとなり、リスクを伴うこともある。大麻町商工会青年部や日亜化学からも協力をいただいております、豊岡の専門家と十分に検討していきたいと考えている。

関連して、9月8日の定例記者会見で、コウノトリのブランド名称とロゴマークを発表した。環境の良い鳴門市をコウノトリが選んだという視点で、低農薬のレンコン栽培などのレンコンのブランド化により、地域の農産物、将来的には加工品も含めてコウノトリブランドを推奨していきたい。

委員

卵がかえらなかったのは、カラスが食べてしまったと聞いたが、真偽はいかがか。

黒川経済建設部長

産卵した後に一羽が必ず卵を抱いているのが通常であるが、今回は2羽とも離れてしまい、カラスが卵をつついてしまった。落ちていた殻で卵の試験を行ったが、結果的には無精卵であり、そのまま続けていても孵化はしていなかっただろう。

山下会長

進捗状況が未達成となっている事業には、理由が記載されている。事業が遅れてはいるが心配ない事業もあるだろうし、中には課題がある事業など、さまざまな理由があると思う。そのあたりで、ご意見があればいただきたい。

事務局

今回未達成となった28事業のうち、予算の繰越によるものが7事業ある。その他については、数値目標の8割に達しなかった事業が未達成となっている。

先ほどご指摘いただいた観光の入込客数については、目標245万人に対し、実績は約193万人であった。この目標は、前期基本計画の策定時に設定したもので、当時と捕捉方法が変更されていることもあり、現状は厳しい数字となっている。他の事業では8割に満たなかったが、それに近いかたちで推移しているものが多い。できる限り未達成となる事業が少ないかたちで事業展開ができればと考えているので、ご理解をいただきたい。

山下会長

このような計画を立てて推進していく場合は、皆さんご存知のとおりPDCAサイクルによって行われる。Plan（計画を立てて）、Do（実行して）、Check（改善して）、さらにAction（改善策を立てていく）。まさにCheckとActionの役割がこの審議会にあると思うので、皆さんには今後ともよろしくお願ひしたい。

◆議事（2）総合計画後期基本計画（素案）について

※資料②～④に基づき、後期基本計画（素案）について事務局から説明。

山下会長

事務局から資料の説明をいただいた。資料②「はじめに」、資料③「成長戦略」の部分について、ご意見はいかがか。

委員

資料③ 成長戦略素案のP2「ブランド力の向上」の部分について、鳴門市には素晴らしいものがたくさんあると思い、感心しながら拝見した。

ここには大塚国際美術館に関する記載がないが、県外でも大変評判となっており、訪れる方もたくさんいるので、「鳴門の魅力発信」や「鳴門の魅力づくり」などの部分での記載が可能かどうか検討していただきたい。

事務局

ご意見ごもっともなので、計画に記載するよう調整をさせていただく。

委員

大塚国際美術館は、観光客からも褒めていただいております、多くの方が入館している。また、鳴門海峡の渦潮に関しては自然に渦が巻く関係で時間が空くことがある。その時間で美術館を利用される場合もあるが、なかなか市内を観光に回る人は少ない。

鳴門公園に来られる観光客は、鳴門北インターチェンジで降りて、市内を回らずに高知県や愛媛県に行く場合が多く、通過型観光の要因になっている。

委員

資料について、資料①-1 実施計画の一覧表と資料④-1 体系表とは字が小さいので大きい字で記載をお願いしたい。

資料③成長戦略素案のP10に「5年後の主な目標値」が記載されているが、目標値が増加すると、それに伴い予算も必要になるのではないかと。これから人口が減少し、住民税などの税収も下がってくると思うが、予算に関してどのように考えられているのかお聞きしたい。

事務局

資料については、今後改善をさせていただきたい。

もう一点の目標値と予算の関係について、この成長戦略には、現在継続中の事業も多く記載されている。鳴門市の予算編成の方針として、新たに事業を行う場合には、既存事業の見直しなどを行っている。総合戦略に関連する事業については新型交付金などの国からの補助等の活用、また、戦略企画課が担当する「ふるさと納税」では昨年は5千万円を超える寄附金をいただくなど、一般財源の確保にも取り組んでいるところである。

当然ながら予算がなければ事業の推進が難しいこともあるが、今後、既存事業の見直しを図る中で、チャレンジが可能な部分もあるので、目標に向けて事業を推進していきたいと考えている。

委員

今年、瀬戸中学校のプールが使用できなくなり、プールの授業がなくなってしまう。プールや体育館などの施設が使用できない場合、近隣にある小学校などに、柔軟に協力してもらえるような仕組みづくりを検討してほしい。

施設の老朽化などの問題もあり、他の校区でも起こり得ることだと思う。子どもたちにとって、大人の諦める姿を見せるのではなく、授業が実現できないかと努力して

いる姿を見せていけるような環境づくりも大切なのではないかと。

大林教育次長

今年度に瀬戸中学校のプールに藻が発生して、プールができなかったことで、ご迷惑をおかけした。代替に関する議論を行ったが、水を抜いて掃除を行い、水を入れ直した場合には日数もかかる、体育の授業も夏休みに入るとのことと、今年度については中止の案内をさせていただいた。

ご指摘いただいたとおり、近隣の明神のプール等もあり、協力し合いながら子どもたちがプールをできるように配慮を行いたい。ご理解をいただきたい。

委員

具体的な提案ではないが、「鳴門のブランド力」について考えたこととお話させていただきたい。以前、長野県に旅行に行き、松本城に登った。メモ帳に「徳島県から来た〇〇です」と書くと、それを見た男の子から「池田高校がある徳島県ですね。」と言葉が返ってきた。

鳴門には、四国霊場や大塚国際美術館、鳴門海峡の渦潮などさまざまな観光資源があるが、ブランド力が向上することで、同じように「鳴門がある徳島県」「鳴門がある四国」と呼ばれるようになるのではないかと。

委員

資料③成長戦略素案のP3に、「四国八十八箇所霊場と遍路道、世界遺産化に向けた協力」とある。これに関連して、大麻山の周辺にハイキングコースを造って、ところどころに接待所を設けてはどうか。四国八十八箇所を歩けない方も簡単に回れるし、高齢者の健康増進にもつながると思う。

喜馬市民環境部長

四国霊場八十八箇所については、現在世界遺産登録に向けた取り組みを行っているところである。ご提案いただいた施設については、そのような施設があることで市内での機運が高まることもあろうかと思う。世界遺産への取り組みの中で実現できるようであれば考えていきたいが、施設を造る場合は、土地の問題も含めて難しいこともあると思う。ご理解をいただきたい。

委員

以前に所属していた団体で、毎年全国大会に出席していた。全国から何百人単位の参加があり、鳴門市もコンベンションの誘致をもっと推進してはどうか。鳴門市には教育大学もあり、色々な学会で来てもらえれば、観光をしたり、土産を買ったりして、鳴門市も潤うのではないかと。受け入れ施設の問題もあり、行政だけでは難しいところとは思うが、ぜひ推進していただきたい。

黒川経済建設部長

コンベンションの誘致について、市では、市内に宿泊を伴うものを条件として、補助金を交付している。現状は、サッカーなどのスポーツ大会が大部分を占めており、会議の実績は少ない。以前に外部評価委員会で意見をいただいたこともあり、平成26年度からは隔年での補助となっている。

今後については、ご意見をいただいたように、スポーツのみならず関係機関と連携しながら、誘致に努めていきたいと考えている。

委員

鳴門商工会議所では、5年ほど前から、カジノを誘致しようという研究会・委員会を設置している。カジノ法案はここ10年間ほど見送られているが、今年、来年あたりに法案が通る可能性がある。法案が成立してカジノを誘致する場合、申請を行うのは鳴門市、同意を行うのは徳島県となる。四国でこのような動きをしているのは鳴門市のみである。

2、3年前に、ドイツのバーデン・バーデンに行ってきた。鳴門市と同じ人口規模の街にカジノが建っており、このようなヨーロッパ型のカジノができないかどうかを考えている。法案が通れば、基本計画に書き加えるような状況になると思うし、そのような状況になってほしい。小さなカジノとはいえ、数百人、千人程度の雇用が生まれる。バーデン・ハーデンではカジノの収益に地方税をかけている。ここ数年で、状況が変わるかもしれないのでご承知おきいただきたい。

事務局

市では、戦略企画課からオブザーバーとしてカジノの会議に参加させていただいている。カジノについては、市民の方もさまざまな意見があると思うし、賛成の方も反対の方もいると思う。これまで先延ばしされてきていることもあり、まずは法案が通ることが先決。民間団体の動向を見極めながら進めるのが、鳴門市のスタンスとなっている。

この件に関しては、総合戦略の会議でもご提案をいただいております。総合戦略には、カジノという文言ではないが、商業施設等の検討として記載させていただいた。総合戦略の中身は、総合計画の基本計画にも記載される。実現するかどうかも含めて今後の検討の範囲と考えているので、ご理解いただきたい。

委員

カジノの件で、バードはドイツ語でお風呂という意味で、バーデン・バーデンでは保養所に行ったお金持ちがカジノをする場合が多い。

鳴門の場合、カジノだけでも集客になると思うが、保養に来た人がゆったりとした気持ちでカジノに行く状況が必要であると思う。鳴門市でカジノを進められる場合は、温泉などの保養所も含めて計画した方がよろしいかと思う。

委員

観光客の増加に関して、鳴門市のホームページもリニューアルして見やすくなった。これまで鳴門市や徳島県に行きたい方は、旅行会社などの媒体を通して、旅行情報を入手することが多かったと思う。

最近では検索媒体が変わってきて、「トリップアドバイザー」や「フォートラベル」で観光地や宿泊場所を探し、食事の場所は「食べログ」で探すなど、スマートフォンで情報収集を行っている。サイトを見てみると、力を入れている自治体は、観光課やコンベンションの関係者が直接書き込みをしている。鳴門市はあまり書き込んでいないので、インターネットを活用したPRを視野に入れて推進してほしい。

林事業推進監兼企画総務部長

市のホームページもリニューアルしたところであり、シティプロモーション等も充実していきたいと考えている。ご提案いただいた件についても、庁内でできることから検討して、今後の施策の参考としたい。

委員

今の内容に関連して、成長戦略では、鳴門の特色ある「良いもの」。自然、文化、産業などを前面に打ち出した計画と思いきや感心した。今後さらに市内への情報発信・世界的な情報発信を行っていく必要があると思うが、現状はどのようにされているのかお聞きしたい。

また、拠点づくりとして、県外の人口密集地に出張所において職員を派遣する場合は多額の費用が必要になるが、その地方の民間人をお願いして仕事をしてもらうなど、ネットワークづくりを検討されてはどうか。

林事業推進監兼企画総務部長

分野別基本計画の素案には、シティプロモーションの項目を新たに追加させていただいている。「だれもが誇れるまち」というテーマで、鳴門の良いものを発掘しながら、現在ある誇れるものを発信していく。ここでは、観光ブランドづくり、鳴門海峡の渦潮、四国八十八箇所霊場、なると第九、世界の記憶遺産など、多くの施策が関連してくると思っている。

成長戦略には現在 94 事業を掲載し、関連する指標も多く盛り込んでいる。また、上位計画以外にも総合戦略では 99 事業を実施しているところである。全庁に関わる部分であり、企業局の事業も含め、一体的に情報発信していきたいと考えている。

シティプロモーションに関しては、インターネットに限らず、さまざまな媒体を活用し、また関係機関を巻き込みながら発信していくことが必要と考えている。ご意見を参考に事業を推進していきたい。

山下会長

リニューアルされた市のホームページは、英語や中国語などの検索は可能か。

林事業推進監兼企画総務部長

英語、中国語のほか、ドイツ語などにもあわせて対応している。

山下会長

次に、資料④の後期基本計画（分野別基本計画）について、委員の皆さんから意見があればいただきたい。

山下会長

資料④の P126 「消費者の自立と保護」について、消費者庁の移転に関して徳島県へ新拠点を設け、消費者行政と消費者教育に力を入れていくと聞いている。

ここには消費者行政に関してはよく書かれているが、消費者教育について何か計画等はされているのか。

喜馬市民環境部長

報道等でご存知かと思うが、消費者庁の移転に関しては、国民生活センターの研修会場として鳴門市も試験的に参加するなかで、保留という状況になった。消費者教育については、学校教育の部分と社会教育、いわゆる大人への教育の部分があると考えている。

現在の計画内容では、消費者への啓発に関連して、社会教育にあたる取り組みを一定程度記載している部分もあると考えているが、各学校で取り組まれている学校教育の部分もあわせて検討していきたい。

山下会長

鳴門教育大学でも、徳島県と連携して、消費者問題における社会教育と学校教育に関して取り組んでいきたいと考えている。可能であれば、市においても計画していただきたい。

喜馬市民環境部長

消費者教育という分野での取り組みに関して、どのような記載が必要かを検討させていただきます。

◆◆ その他 ◆◆

山下会長

事務局には、今回の審議会での意見を参考にしながら、後期基本計画の検討・調整を行っていただきたい。

事務局

第3回の審議会の開催時期は、11月中旬を予定している。議事は、後期基本計画について、ご審議いただく予定としている。